

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成25年10月15日

(2) 調査対象期間 平成25年7月～9月期実績および平成25年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	22社	73.3%
建設業	30社	22社	73.3%
卸売業	30社	24社	80.0%
小売業	35社	22社	62.9%
サービス業	25社	19社	76.0%
合計	150社	109社	72.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成25年度第Ⅱ四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」29.6、「悪化企業」38.9、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△9.3となっており、前年同期比(△17.9)との比較では8.6ポイントの好転傾向を示しました。また、前期調査<25年度第Ⅰ四半期>と比較してみると前回△18.1→今回△9.3と8.8ポイント好転を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△9.0、建設業D・I値13.7、卸売業D・I値0.0、小売業D・I値△9.5、サービス業D・I値△47.3となっており、前年同期調査と比較すると、建設業で34.5ポイント、小売業で27.0ポイント、卸売業で14.3ポイントと好転している一方、サービス業で25.1ポイント、製造業で13.7ポイント悪化傾向となりました。好転業種が多かった要因としては、消費税増税前の駆け込み需要の増加や公共工事の増加とそれに伴う建設資材の発注増などが考えられます。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」17.4%「悪化企業」36.7%でD・I値△19.3と、前年同期見通し(△31.1)に比べ11.8ポイントの好転傾向を示しました。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」40.9%、「減少企業」40.9%、D・I値0.0と前年同期に比べ9.5ポイントの悪化傾向を示しましたが、マイナス値転落は踏みとどまる結果となりました。

採 算

前年比で「好転企業」18.2%、「悪化企業」50.0%、D・I値△31.8と前年同期に比べ22.2ポイントの悪化を示し、業況・生産高に比べ、より厳しい状況が伺えます。

来期見通し

業況D・I値△27.3、生産高D・I値△18.2、資金繰りD・I値△22.7と、前年同期に比べ全てのD・I値で悪化傾向を示し、前年同期の改善から一転、予断を許さない来期見通しとなっています。

2) 建 設 業

完成工事高

前年比で「増加企業」40.9%、「減少企業」27.3%、D・I値13.6と、前年同期に比べ17.8ポイントの好転傾向を示し、D・I値がマイナスからプラスに転じる結果となりました。

採 算

前年比で「好転企業」31.8%、「悪化企業」40.9%、D・I値△9.1と、前年同期に比べて11.7ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値0.0、完成工事高D・I値△4.5、資金繰りD・I値0.0と前年同期と比べ、全て好転傾向を示し、今期に引き続き改善の兆しが伺える来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」37.5%、「減少企業」20.8%、D・I値16.7と、前年同期と比べ26.2ポイントの好転傾向を示し、D・I値がマイナスからプラスに転じる結果となりましたが、「不変」の回答が4割となっていることから、予断を許さない状況が伺えます。

採算

前年比で「好転企業」29.2%、「悪化企業」33.3%、D・I値△4.1と前年同期に比べ10.1ポイントの好転傾向を示しています。

来期見通し

業況D・I値0.0、売上高D・I値8.3、資金繰りD・I値4.2と前年同期に比べ、全て好転傾向を示しましたが、今期売上高と同様に、「不変」の回答が多く、予断を許さない来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」33.3%「減少企業」38.1%、D・I値△4.8と前年同期に比べ22.5ポイントの好転傾向を示しています。

採算

前年比で「好転企業」27.3%「悪化企業」50.0%、D・I値△22.7と前年同期から横ばいの結果となりました。

来期見通し

業況D・I値△18.2、売上高D・I値△13.6、資金繰りD・I値△27.3と前年同期と比べ、全てのD・I値が好転傾向を示し、依然マイナス値は2桁となっているものの、前年同期の非常に厳しい状況から改善が見られました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」5.3%、「減少企業」52.6%、D・I値△47.3と、前年同期に比べ36.1ポイントの悪化傾向を示し、非常に高いマイナス値となりました。

採算

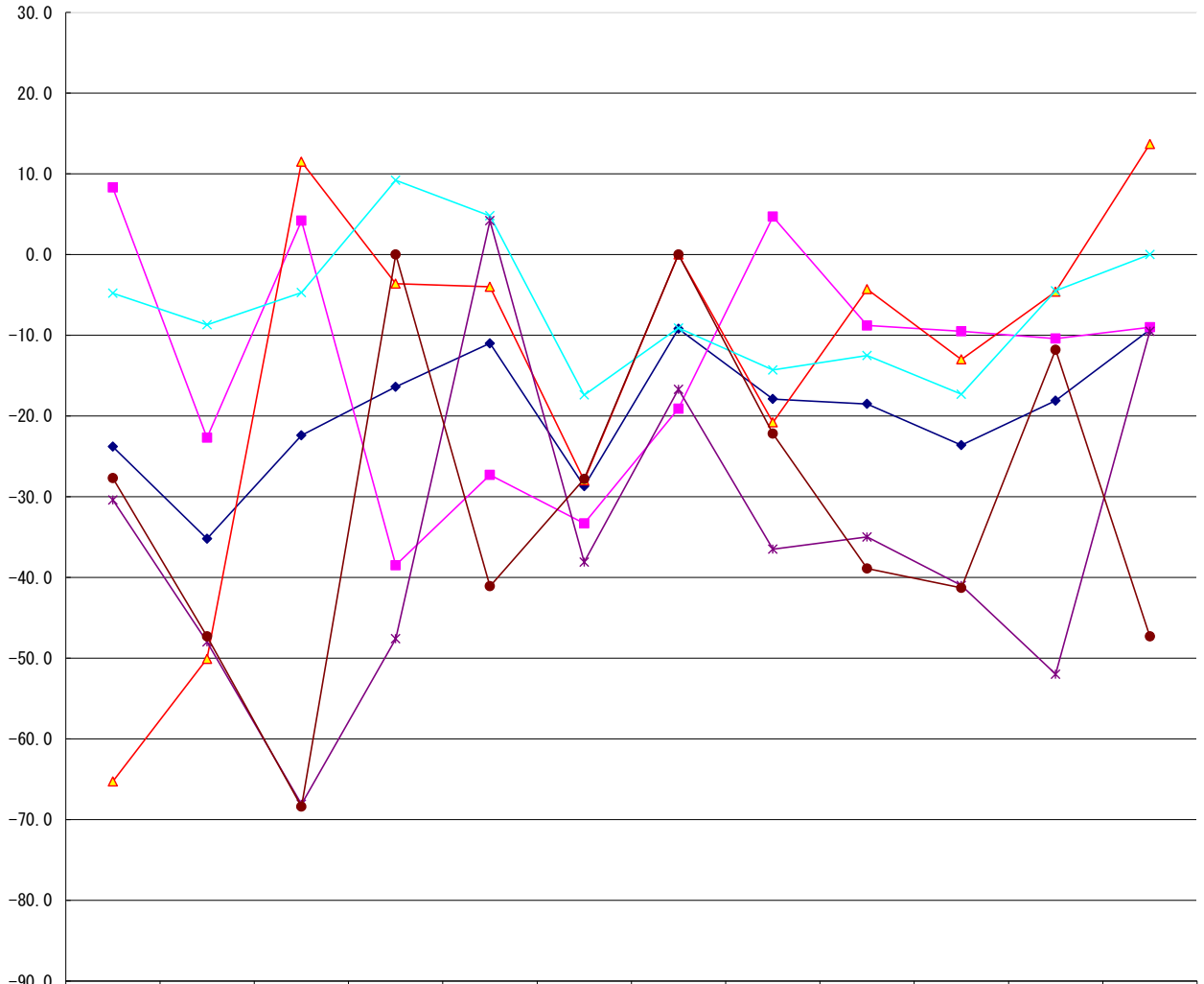
前年比で「好転企業」0.0%、「悪化企業」57.9%、D・I値△57.9と前年同期に比べ24.7ポイントの悪化傾向を示し、売上高同様、非常に厳しい結果となりました。

来期見通し

業況D・I値△57.9、売上高D・I値△57.9、資金繰りD・I値△42.1と前年同期に比べ全て悪化傾向を示し、非常に高いマイナス値となりました。

業況（前年同期比）

◆ 全業種
 ■ 製造業
 ▲ 建設業
 × 卸売業
 × 小売業
 ● サービス業



	22.10~12 22年度Ⅲ	23.1~3 22年度Ⅳ	23.4~6 23年度Ⅰ	23.7~9 23年度Ⅱ	23.10~12 23年度Ⅲ	24.1~3 23年度Ⅳ	24.4~6 24年度Ⅰ	24.7~9 24年度Ⅱ	24.10~12 24年度Ⅲ	25.1~3 24年度Ⅳ	25.4~6 25年度Ⅰ	25.7~9 25年度Ⅱ
◆ 全業種	-23.8	-35.2	-22.4	-16.4	-11.0	-28.7	-9.2	-17.9	-18.5	-23.6	-18.1	-9.3
■ 製造業	8.3	-22.7	4.2	-38.5	-27.3	-33.3	-19.1	4.7	-8.8	-9.5	-10.4	-9.0
▲ 建設業	-65.3	-50.1	11.5	-3.6	-4.0	-28.0	0.0	-20.8	-4.3	-13.0	-4.6	13.7
×	-4.8	-8.7	-4.7	9.2	4.8	-17.4	-9.1	-14.3	-12.5	-17.3	-4.5	0.0
×	-30.4	-48.0	-68.1	-47.6	4.2	-38.1	-16.7	-36.5	-35.0	-41.0	-52.0	-9.5
● サービス業	-27.7	-47.3	-68.4	0.0	-41.1	-27.8	0.0	-22.2	-38.9	-41.3	-11.8	-47.3

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 件 費 増	人 材 不 足
建 設 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	資 金 調 達 困 難	売 掛 金 回 収 難
サ ー ビ ス 業	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足
合 計	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

合計で1～3位の順位が入れ替わり、(前年トップは「同業者間の競合」) 4、5位は変わらずの結果となった。業種別に見ると、やはりトップは「諸経費増」が多いが、2位以下ではばらつきがあり、業種ごとに抱えている問題が多様化している。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(卸売) ○市場の縮小 (種苗・肥料・農薬農業資材)
○円安は業界にとってマイナス (石油製品)

(小売) ○価格を気にするばかりではなく、「ないと困る存在」になるよう努力しなくてはならない
(眼鏡販売)

(サービス) ○円安による仕入れ価格の上昇 (飲食)

業 況

※太字アンダーラインは複数企業が回答

- 製造業 ⇒ 好転（一般製材、農業機械金属製品、建設用金属製品、ブロック）
悪化（印刷、鋳物製品）
- 建設業 ⇒ 好転（建築、一般住宅建築、管土木、板金）
悪化（電気工事、内線工事）
- 卸売業 ⇒ 好転（鉄鋼、ユニフォーム・作業服、家電、三月人形・五月人形・一般玩具、
事務機器・事務用品）
悪化（なし）
- 小売業 ⇒ 好転（食肉、眼鏡、自動車、家電、生花・園芸）
悪化（酒類、衣料品、農業機器、時計・貴金属・宝石）
- サービス業 ⇒ 好転（なし）
悪化（ホテル【宿泊/宴会】、飲食、クリーニング、理容、理美容、弁当仕出、
清掃用品賃貸）